

ボランティア相談に関する考察

1. 相談受付カードからみる学生の相談傾向

ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する相談に対応している。長期休み中に参加する海外ボランティアを探している学生、ボランティアを始めてみたいが、どれにするか決められない学生。また、「海外支援のため駅前で募金活動をおこないたいが、どうしたらいいですか」など、学生たちから寄せられる相談は多様だ。センターの機能や学生の利用状況を知るために、学生たちはどのような内容を相談するためにボランティアセンターを訪れているのか、実態を把握する必要性を感じている。しかし、入れ替わり立ち代り来室してくる学生たちのすべての相談を記録に留めることは難しい。そこでまず、今年度ボランティア相談を訪れた学生の相談受付カードを整理することを通して、相談内容や相談者の傾向を明らかにしたい。

まず、簡単にボランティア相談受付カードの説明をしたい。相談カードには学籍番号と名前、相談内容、コーディネーター記録欄²が設けられている。相談時にこのカードを利用することにより、再来室の学生に前回の相談内容を踏まえて話ができる、コーディネーターが学生一人ひとりの基本的データを記憶する際の助けとなるなどのメリットがある。希望したボランティア活動がその場で紹介できない場合、連絡先を記入してもらおうカードとして役立っている。なお、相談受付カードに記入することが、コーディネーターにとっても学生にとっても必須ではないため、相談にのったすべての学生が相談受付カードに記入しているわけではない。授業開始時刻が迫り急いでセンターを後にする場合やセンターが込み合っていて相談カード記入の依頼ができないケースなどもある。

今回整理をおこなうのは2008年4月～12月に新たに対応した相談受付カード99件である。ボランティア情報のチラシ等の閲覧のみの学生や2008年4月以前にも相談を訪れているケースは除いた。

相談者を学年別にみると、1年生が64%と最も多い。続いて2年生が21%、3年生が13%、4年生が2%となっている。横浜校舎は1、2年生と国際学部生が学んでいるキャンパスであるということ、また最近では社会学部や経済学部などで2年生から白金開講科目を多く設置していることが、その理由であるだろう。

学科ごとにみると、4年間横浜キャンパスに在籍している国際学科が29%と最も多く、続いて社会福祉学科(23%)、英文学科(15%)と続く。続いて利用が多いのは政治学科(7%)、社会学科(6%)である。一方、法律や国際経営の学生は全体の約2%しかいないことは、学科によって大きく偏りがあることが明らかになった。その一方、相談学生がいない学科はなかった。

¹ 「ボランティア相談受付カード」は2007年度から作成されているが分析を試みたことはなかった。

² 学科や自宅のある地域、関心のある分野、紹介したボランティア活動のほか、事後連絡用にメールアドレスや電話番号を必要に応じて記録している。

月ごとにみると、新入生が入学した4月と、新学期がはじまった10月の相談件数が多い。夏休み前は活動を探す学生が多いので、ボランティア活動を紹介する説明会を開催するなど個別相談以外に学生のボランティア活動紹介に対応する機会が豊富なこと、一度に多くの学生が来室しているため、記録に応じてもらいにくかった事情があったのではないかと考える。

男女別では女子学生の利用が81%である一方、男子学生は19%であり、男女比が極端に大きい。相談内容については、国際が36%で全体の3分の1以上を占め、子どもが21%、環境と高齢が各々8%、障がい者が7%、病院2%、心理、音楽、動物も各々1%、ボランティア相談全般14%であった。学生の関心が高い分野が国際、子ども、環境という傾向は、ボランティアセンターが毎年4月におこなっている新入生アンケート³で回答があった関心分野と同じ傾向を示している。

以上、相談受付カードを通してみえた相談傾向を述べてきた。データとして不十分ではあるが、センターに相談しに来ている学生たちの傾向をつかむことができたのではないかと考える。

最後に今回の相談受付カードの整理からみえた傾向とその対応を考えたい。1つ目は、センターに相談に来る学生は、学科ごとに大きく開きがあること、来室者が少ない法律学科や国際経営学科、芸術学科や仏文学科の学生には、ボランティアセンターの認知と活動への関心をもってもらうような取組が必要だということが明らかになった。次に、センターに来室する学生は新入生に限らず、4月や5月の時期に多いことが明らかになった。特に4月、5月の時期にボランティアセンターの活動やボランティア先の紹介に、力を入れていくことが必要である。3つ目は、相談者の半数以上が1年生であることから、1年生の参加が促進されるような取組みをセンターがおこなう必要があることが分かった。4つ目に、この相談受付カードは相談内容が自由記述になっているため、学生の記入が「ボランティアの相談」というような漠然としたものになってしまう傾向がある。相談内容の選択肢をあらかじめ設定しておき、学生のニーズがより分かる形式に相談カードを改良する必要があると考えた。今回は新規のボランティア相談受付カードの整理を試みたが、その後の動向や学生へのフォローアップの取り組みについて、記録化し整理していきたいと考える。

2. ボランティア相談が活動支援につながった事例

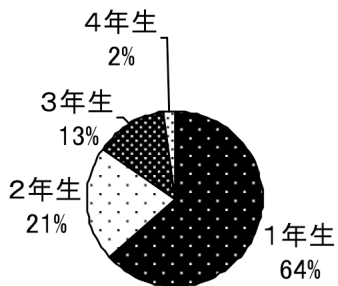
ボランティア相談がきっかけとなり、コーディネーターが活動に対するアドバイスを行うことで動き出した活動がある。戸塚近隣在住の外国につながる子どもへの学習支援をおこなう「こ・こ・ろ」⁴、タイの山岳民族の保健衛生及び環境啓発に取り組む「あちょみだ」⁵である。ともに学内外の助成金を得て社会的にも評価・支援される団体として育てている。ボランティアセンターによるインキュベーション（孵化）機能が発揮されるような支援を今後とも充実させていきたい。（糸井）

³ 新入生アンケートについては、本書「新入生のボランティア意識」を参照。

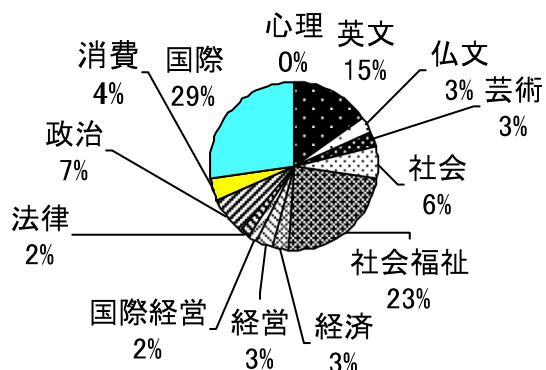
⁴ 詳しくは、本書「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」を参照。

⁵ 第8回ソニーマーケティング学生ボランティアファンドの助成を受けた。

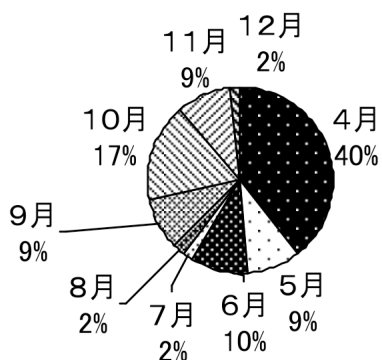
学年別



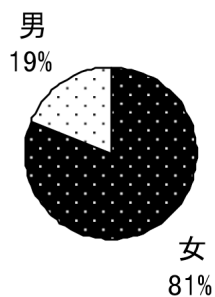
学科別



月別



性別



相談内容

